

まいづるのふくし

第211号
令和3年1月発行

やさしい香りで
身体も心も
緩ませて

もくじ contents

- お礼** 赤い羽根共同募金・歳末友愛運動募金にご協力
ありがとうございました 2
- 報告** 中外製薬株式会社様より在宅福祉サービスカーを
ご寄贈いただきました 3
- 報告** 障害者週間啓発事業 3
- 紹介** 社協ってなに？ 地域支えあいサポーター編 4
- 紹介** Withコロナでの活動 5
- 地域** 地域を知る 倉梯・倉二・与保呂地域 6
- 地域** 地域を知る 城北地域 7
- 報告** 舞鶴市身体障害者福祉大会が開催されました 8
- お礼** 綿布のご提供ありがとうございました 8
- 案内** 舞鶴市ボランティアセンター開設45周年記念事業を開催します 8
- お礼** 寄付のお礼 8

(表紙)

写真 アロマでおかあさんも赤ちゃんも
リラックス
(子育てサロン「たんぼぼカフェ」)

2歳前後の乳幼児をもつ親子を対象に、子どもの成長・保護者の居場所づくりを目的として月に1回高田工務店内の会場をお借りして開催されているたんぼぼカフェ。

12月はおかあさんも子どももリラックスできるアロマについて学びました。子どもと一緒に使える香りや活用の仕方が知れてよかった、と参加者。講師からは、産後のセルフケアや母子のスキンシップツールとしてつかってもらえれば、とお話してもらいました。

※アロマは香りのことを指し、自然の植物や果実がもつ香りの芳香療法をアロマセラピーといえます。



舞鶴市社会福祉協議会

(舞鶴市ボランティアセンター、舞鶴市成年後見支援センター)
(舞鶴市共同募金委員会事務局、舞鶴災害ボランティアセンター)

〒625-0087 舞鶴市字余部下1167 (中総合会館 3F)

TEL.0773-62-7044 FAX.0773-62-7039

E-mail maizuru-shakyo@jasmine.ocn.ne.jp

URL <http://www.kyoshakyo.or.jp/maizuru/>



お礼

「赤い羽根共同募金」「歳末友愛運動募金」にご協力ありがとうございました!

10月1日からスタートした「赤い羽根共同募金」、11月21日からスタートした「歳末友愛運動募金」の運動期間が終了しました。

特に本年は、新型コロナウイルスの影響もあって、自治会（区）長様をはじめ、募金活動に苦慮された方も多かったかと思えます。その中でも自治会（区）からの戸別募金をはじめ、企業、学校、街頭等でもご協力をいただき、ありがとうございました。「このような状況だからこそ、社会のために何かしたい」という寄付者の皆さまの気持ちの受け皿となるべく、お寄せいただいた募金は、地域福祉活動に有効活用させていただきます。

主な活用の方法

●赤い羽根共同募金

自治連・区長連協議会・民生児童委員連盟・保護司会等の各種団体、福祉施設、学校、ボランティアグループ等への事業助成等

○歳末友愛運動募金

地域要援護世帯・在宅障がい児の方への支援、当事者団体・ボランティア活動への支援等

募金結果につきましては、次号（212号）や本会ホームページ、町内回覧等で報告させていただきます。



コロナ対策をして10月3日に街頭募金を実施
(まいづるマルシェ)

ありがとうございました!



ボーイスカウト舞鶴第3団の皆さんが
12月13日に街頭募金を実施(フクヤ白鳥店)

海上保安学校 学生隊の皆さんにも ご協力いただきました!

学生隊の400人以上の方から職域募金をお寄せいただきました。また、「赤い羽根」のシールを帽子につけて行軍訓練を実施され、赤い羽根共同募金のPR活動にも貢献していただきました。ありがとうございました。



募金の受領(10月20日)



「赤い羽根」をつけて行軍訓練(10月23日)



報告

中外製薬株式会社様より 在宅福祉移送サービスカーを ご寄贈いただきました

ありがとう
ございました!

中外製薬株式会社様は、在宅で介護を受ける高齢の方やお身体の不自由な方の在宅生活を豊かなものとするためには、地域における移動手段の充実が大切との考えから、1985(昭和60)年より「在宅福祉助成(車両寄贈)事業」を実施されており、この度本会へご寄贈いただきました。

ご寄贈いただいた車両は、車いすの乗降に便利な昇降リフトやステップも備えており、今後の「福祉送迎サービス事業」や「福祉車両貸出事業」で、大切に活用させていただきます。



寄贈された車両。
これから福祉送迎サービス
事業や福祉車両貸出事業に
使われます。

福祉送迎サービス事業

障がい者や高齢者の車いす利用者等、公共交通機関の利用が困難な方を対象に、ボランティアの運転により外出や社会参加支援に係る送迎を低額の料金で実施する事業です。(事前に登録必要)

福祉車両貸出事業

広くボランティア団体や一般市民に対し、無償(燃料代金等の実費負担のみ)により、福祉車両の貸出しを行う事業です。(要予約)



寄贈式を行いました。



乗降に便利な昇降リフト

報告

障害者週間(12/3~12/9)啓発事業 みんなですすめよう 共に生きるまちづくりを

障がい者福祉への理解と関心を深めるために、関係機関、団体が「障害者ふれあい行動デイ実行委員会」を組織して、12月3日~9日の障害者週間の啓発活動を行っており、今年で38回目を迎えました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、集会や街頭啓発は実施しませんが、FMまいづるへの出演や、障害者事業所の飲食店(カフェ)に啓発物品を置いていただき、来店された方へ配布するなど、様々な取組を実施しました。

FMまいづるにも出演しました!



啓発物品も喜んでもらいました!



障害者週間って?



国民の間に広く障がい者の福祉についての関心と理解を深めるとともに、障がい者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的として、毎年12月3日から12月9日までの1週間が「障害者週間」と障害者基本法で定められています。

横断幕、のぼりを市内各所に設置しました。



障害者ふれあい行動デイ実行委員会

舞鶴市身体障害者団体連合会、舞鶴市ボランティアセンター、舞鶴社会福祉施設連絡協議会、舞鶴市身体障害者福祉センター、舞鶴市、舞鶴市社会福祉協議会

紹介

社協ってなに？〈地域支えあいサポーター編〉

舞鶴市社会福祉協議会では、さまざまな地域福祉事業を行っております。
今回の「社協ってなに？」では、「地域支えあいサポーター」についてご紹介します。

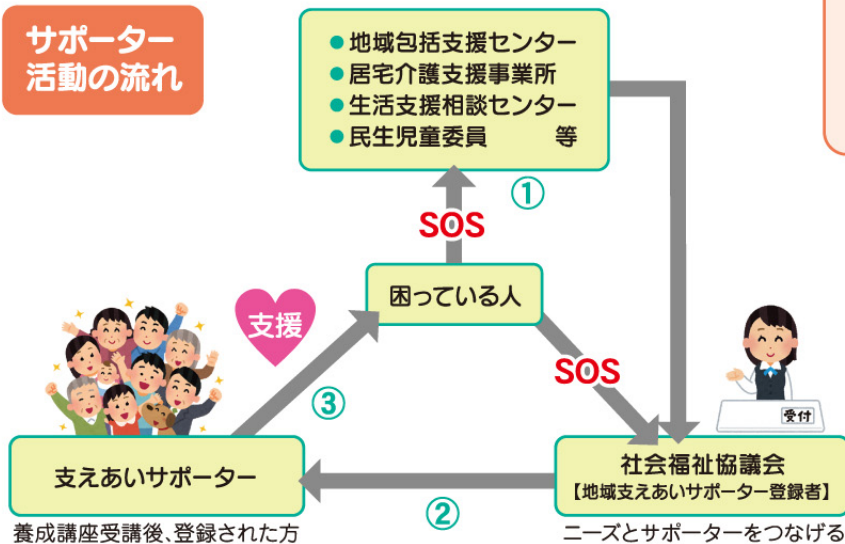
「地域支えあいサポーター」とは、地域で見守りが必要な方の孤立化を防ぎ、誰もが安心して暮らせる地域づくりのために、身近な地域での声かけや見守り、依頼があれば簡易な生活支援によって支えあい活動を行うボランティアです。

市民の方や地域包括支援センターからの依頼が多く、主な活動として、①高齢の方や障がいのある方への可燃・不燃ゴミ出しの支援、②安否確認を兼ねて、ひとり暮らし・昼間ひとりで生活されている高齢者宅へ訪問してお話相手になる支援があります。



支援を必要とする方々が、住みなれた地域で、安全・安心して生活を続けるためには、介護保険等の公的な福祉サービスを利用してもらうとともに、福祉サービスでカバーできない部分を支える助け合いが必要です。

サポーター活動の流れ



現在、72名の方が登録されています。(令和2年12月現在)
市内全域で活動が展開できるように、サポーター登録者数が100人以上を目指します。



サポーターに登録するには？

社会福祉協議会が実施している「養成講座」を受講していただき、サポーター登録をします。支援が必要な方から依頼があった際に、社協が支援内容を調整し、サポーターの方が承諾されたら活動の開始です。また、支援に必要な知識やスキルの参考にしてもらうために、年に一度「フォローアップ研修」を開催しています。



フォローアップ研修(12月16日)

サポーター募集中です



「特別」じゃない支えあい

サポーターの活動は、特別なことではありません。資格を必要としない「ちょっとした」支援で、日常生活に不便を感じておられる方をサポートするボランティアです。地域のために何かしたい、誰かの力になりたいと思っているけど、何をしたらいいかわからず悩んでいる方、地域支えあいサポーターから始めてみませんか。養成講座にぜひお気軽にご参加ください。皆さんの「何かしたい」「力になりたい」という気持ちから、地域の支えあいが始まります。

紹介 Withコロナでの活動

本年度は新型コロナウイルスの影響で、活動を自粛されている団体も多いと思います。そのような中で、いつもとは形を変えながら活動を再開されている団体もありますので、その様子を一部ご紹介します。



舞鶴市食生活改善推進員協議会「はまなす会」

「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに、食を通じて健康づくりの普及活動を行うボランティア団体です。

各世代向けの料理教室の開催やレシピの考案、低栄養・フレイル予防の講話、調理実習など幅広く活動されています。

今年は、一緒に調理をすることなどこれまでやってきたことができないため、活動内容に苦慮されたそうです。そのような中でも誰もが健康で長生きができるようにとの思いから、対象者を少人数に絞って調理場を併設している会場で、世代に合った健康的な食事の提供と講話を中心に取り組まれています。



栄養と美味しさを兼ね備えています

コロナ禍でいろいろな困難もありましたが、事業所の協力もあって、働き世代のための生活習慣病予防の事業も実施できてありがたく、嬉しかったです。これからも地域に少しでも役立つ活動をしていきたいと思えます。
(蘭田宏子会長)



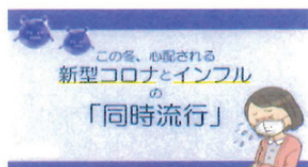
福祉健康推進会

歩こう会・ミニサロン・見守りなど、地域に根差した活動をされています。見守り活動では、訪問も制限される中で対話から様子を伺っているそうです。会の活動を楽しみに待っていてくれる人がいることが、継続する力にもなっています。

毎年恒例の歳末のお餅配りの際に、会長が考案し、薬局と一緒に作成したコロナとインフルエンザ対策のちらしも同封して、注意喚起されています。



こんなときだからこそ絆が大切だと感じています。当たり前のことしかしていませんが、みんなで助け合って活動しています。
(世伝よう子会長)



強い	感染力	非常に強い
鼻水やせき	症状	3日以上の高熱
飛沫・接触	感染経路	空気

会長考案のちらし
(一部抜粋)



紹介しました2団体のほかにも、コロナ禍でも工夫されながら活動されている団体もあります。活動の再開や取り組み方を検討されている方は、資料提供等もできますので、ご相談ください。



倉梯・倉二・与保呂地域は、人口は15,084人、65歳以上の高齢者は4,589人（高齢化率30.42%）です（令和2年4月1日現在）。

今回は、南福祉協議会が中心となり行っている「地域安全マップ」事業について紹介します。

以前から学校が作成された子ども向けの安全マップはありましたが、お年寄りや地域住民全員を対象としたものにするため、新しい「地域安全マップ」の作成を南福祉協議会設立50周年の記念事業として始められました。南福祉協議会、民生児童委員、学校、交番、市職員が、倉梯・倉二校区の安全・安心のために一丸となって作成に取り組まれています。

マップ作成は、まず、倉梯校区、倉二校区に分かれて通学路を実際に歩いて、見ることで、危険な場所を確認されました。メンバーの中には日ごろからウォーキングされている方もあり、普段から気になっている場所も教えてもらうなど、多くの人の目で見ることによって、見落としがないよう総勢15名が2班に分かれ各校の通学路を回られました。

次は、歩いて確認してきた情報を、地図に落とし込む作業です。行永交番の方にも来ていただき、校区内での交通事故・不審者などの情報も教えていただきました。地図には危険箇所の写真も載せることで、見ただけで誰もが分かるように作成されています。

今後は、地図の校正を重ねていき、年度内には小・中学校、幼稚園をはじめ、地域に配付される予定です。1枚で倉梯・倉二校区を網羅しているので、春にはこのマップを持って、近くを歩いてみるのもいいかもしれません。



実際に歩いて、危険な場所を確認



歩いて確認したことを、地図に落とし込みます



地域の コミュニティづくりと 健康づくりを

南福祉協議会
村尾 幸作 会長

地域みんなが元気であってほしい、みんなで集まる場がほしいという思いから、地域の活性化・元気づくりの一環でウォーキング事業を実施する中、お年寄りの安心、子どもの安全を守ることを目的に、地域に密着したマップをつくることにしました。このマップを活用して、外出や人と会う機会をもっといただき、地域がますます元気に、地域のコミュニティが増えれば嬉しいです。



ウォーキングから見守りへ 歩くのなら 午後3時から4時

南公民館
前羽 仙圭 館長

南福祉協議会の活動拠点である南公民館も、今回のマップ作成と一緒に取り組んでいます。歩くことが地域の見守り活動にもなります。自治会回覧でもお願いしましたが、ウォーキングの時間を午後3時から4時（子どもの下校時間）に合わせて行うだけで、子どもを見守る目を増やすことができます。地域安全マップも見守る機会を増やす一つだと思っています。このマップが地域の皆さまの安全・安心につながると幸いです。

城北地域は吉原、余内、明倫、福井の4小学校区を含む地域で、人口は17,076人、65歳以上の高齢者は5,736人（高齢化率33.59%）です。（令和2年4月1日現在）。

今回は、城北地域包括支援センターの「城北地区「暮らしやすい地域作り」への取り組み」を紹介します。

城北地区「暮らしやすい地域作り」への取り組みとは…



「住民が暮らしやすい地域」を目指すため、サロン団体へのヒアリングを実施し、『Studio-L（コミュニティデザイン会社）』の協力・助言を得て、関係機関と連携しながら地域の課題抽出と新たな地域づくりの方向性を見出すことを目的とした事業です。

今年度は主にサロン代表者を対象にヒアリングを実施しました。それを聞いたうえで、参加した関係機関と意見交換しました。

サロンリーダーのような気持ちを持った人が増えることが、活性化につながる。地域活動のきっかけづくりを行政や包括、社協で連携して進めていきたい。



地域の人が楽しんで作り上げていくサロンが、行政主体になってきている部分がある。住民主体で開催を継続していくことが重要。



サロンの高齢化、世話人の後継者不在、内容のマンネリ化、新しいことをするのを嫌がられる、話す人が固定化している…

悩みは
いっぱい



サロンの特色や強みを自覚することも大切で、自分たちのサロンはこんなサロンだとアピールしていくことで、新規の参加者も増える。



城北地域包括支援センターより

ヒアリングでは、サロンでの取り組みや困りごとなどをはじめ、関係機関からも多くの意見を伺うことができました。

ヒアリングの分析・取りまとめを行うことで、地域包括支援センターが地域で担える役割等を明確にしていき、暮らしやすい地域作りへの計画の立案や高齢になっても活躍できる場を検討するなど、サロン・地域住民の方と共に、地域の課題解決に取り組んでまいりたいと思います。

サロンに限らず、地域での困りごとや気づいたことがありましたら、いつでも包括支援センターへご相談ください。

城北地域包括支援センター

舞鶴市字南田辺1番地
（西総合会館4階）
☎0773-77-5004

【対応時間】
8:30～17:30（月～金）

報告

舞鶴市身体障害者福祉大会が開催されました(11/7)



功労者への表彰

障害者体験発表

68回目となる舞鶴市身体障害者福祉大会が、中総会館ホールにて開催されました。本年度は、新型コロナウイルスの影響で規模を縮小しての開催となりました。

大会では、障がいを克服し自立更生しておられる方や、障がい者の援護に長年尽力された方への表彰に加え、本年は特別に舞鶴市身体障害者団体連合会70周年記念功労者表彰もありました。また、2名の方から発表もあり、自立に向けた体験談を自身の声で話されることで、参加者への生活の意欲向上の一助となりました。

お礼

綿布のご提供 ありがとうございました(11/24)

舞鶴市ボランティアセンターでは、年に2回、市内の福祉施設に使用済みの綿布を贈る活動を行っています。

平成27年度から始まり、今回で12回目となったこの取組ですが、11月24日(火)に行ったところ、市民の皆さまから前回は上回る2,281点もの綿布を提供いただき、希望のあった10施設へお渡しすることができました。特に本年は、新型コロナウイルスの影響で施設内では消毒する機会が増え、施設では綿布が不足している状況であり、多くの綿布をご提供いただき、ご協力いただいた皆さまありがとうございました。

次回は令和3年6月下旬頃を予定しております。日時等は、市・社協の広報紙、社協ホームページ等でお知らせします。



案内

舞鶴市ボランティアセンター開設45周年記念事業

2/14「ボランティアふれあいの集い」を開催します!

2月14日(日)13時30分から、中総会館ホールで、舞鶴市ボランティアセンター開設45周年記念事業「ボランティアふれあいの集い」が開催されます。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために規模を縮小し、ボランティアグループの発表と桂三扇氏による講演を行います。また、会場の密を避けるために、定員を100名とし、事前予約が必要になります。詳しくは、舞鶴市ボランティアセンター(舞鶴市社会福祉協議会内、☎0773-62-7044)までお問い合わせください。



桂 三扇氏

WITHコロナの新しい生活を

新型コロナウイルス感染症の流行は、まだまだ猛威をふるっており、収束の見通しが立っていません。

「うつさない・うつらない」ためにも、引き続きマスクの着用や手指消毒、3密を避けるなどで感染リスクを回避していきましょう。

また、心身のストレスや運動不足も懸念されますので、ウイルスばかりに気をとられ過ぎず、日常生活リズムを整えていくことも大切です。

まだまだ不安な日々が続きますが、一緒に乗りきっていきましょう。

人との間隔はとって
心の距離は近づけて



お礼

ご寄付を いただいた方々



貴重なご芳志をありがとうございました。有意義に活用させていただきます。

〈令和2年9月1日～令和2年12月10日受領分〉

- 荒賀 千鶴枝 様 45,000円
- 株式会社 夢グループ 様 2,020円
- 国際ソロプチミスト舞鶴 様 10,000円
- 合計 57,020円
- 中外製薬株式会社 様
在宅福祉移送サービスカー 1台
(524万円相当)